

新古賀病院

古賀病院 21

新古賀クリニック



「患者さんや地域のための医療を推進」 理事長 古賀伸彦	P 2
久留米ビジネスパークに老人ホームなど建設へ	P 3
市民公開セミナーを年5回開催へ	P 4
施設案内の看板設置し電車内放送も開始	P 5
地域医療セミナー102人が聴講	P 6
PET受診者が3万人突破	P 7～8
レーザー使用の前立腺肥大症手術など開始	P 9
古賀病院21にHCU開設	P 10
乳がん日曜検診に会社員ら119人	P 11
天神会の外来診察予定表	P 13～14

八女市辺春地区に診療所開設へ

P1～2



2011年12月

2011年12月発行
 医療法人「天神会」広報誌第8号
 発行／医療法人「天神会」
 編集・製作／医療法人「天神会」広報部
 印刷・製本／株式会社四ヶ所

●●● 理 念 ●●●

人々の豊かな生涯を支援する医療

行動規範

1. **病める人中心の医療** 病める人の権利を尊重し、プライバシーを遵守して、思いやりのある医療の実践に努めます。
2. **安全で高度な医療の提供** 病める人の安全を確保し、いつでも受療できる体制を整え、心のもった質の高い専門的医療の提供に努めます。
3. **医療機関との連携** 地域医療機関との連携を緊密にし、生涯にわたる一貫性のある医療の提供に努めます。
4. **医療人としての研鑽** 私たちは医療人として、医療技術の向上に日々努め、節度ある態度をもって病める人に対処できるように自己研鑽に努めます。

医療法人 天神会



URL <http://www.tenjinkai.or.jp>

E-mail info@tenjinkai.or.jp

新古賀病院 
 〒830-8577 久留米市天神町120
 TEL: 0942-38-2222 (代) FAX: 0942-38-2255

古賀病院21 
 〒839-0801 久留米市宮の陣3-3-8
 TEL: 0942-38-3333 (代) FAX: 0942-38-3324

新古賀クリニック 
 〒830-8522 久留米市天神町106-1
 TEL: 0942-35-2485 (代) FAX: 0942-37-3793

天神会ホームページへは

医療法人天神会は、八女市が公募した無医地区「立花町辺春地区」への診療所開設事業者に応募していましたが、八女市の三田村統之市長から2011年10月18日に開設事業者への選定通知書が届き、2012年秋までに旧上辺春小の校舎を改修して地区住民待望の診療所を開設することにしました。

住民要望で無医地区解消

辺春地区は熊本県境の隣接地にあり、約1400人が住んでいますが、2010年3月に地域医療を担っていた個人の診療所が閉鎖されて以来、無医地区となっていました。診療所の早期開設を求めた住民約700人の署名運動などを受けて、八女市が診療所開設事業者を公募し、無医地区の実情や住民らの要望を知った医療法人天神会では「人々の豊かな生涯を支援する医療」を理念に掲げた地域

八女市辺春地区に診療所開設へ

天神会



診療所が開設される予定の旧上辺春小の校舎

医療支援病院を運営する医療機関として、無医地区の解消を支援し、地元の声を聴きながら地域の実情に合った医療を進めていきたい」と応募しました。

医療法人天神会では八女市と事業開始に関する協定を結び、同市の支援を受けて計画を進めることにしています。診療所には2010年3月に閉校した旧上辺春小学校の平屋校舎(約712平方メートル)を同市から無償で借り受けて利用し、内科医師や看護師、事務員各1人が常駐して平日に診察、往診するための診察室や事務室、宿直室のほか、健康教室などを開くための会議室も整備する予定です。

辺春地区住民の皆様の「今後と

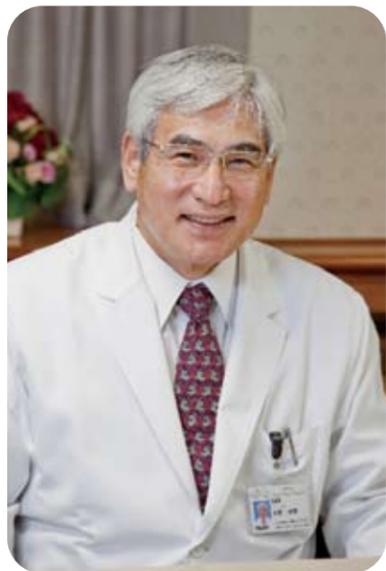


患者さんや地域のための医療を推進

月日の経つのは早いもので、東日本大地震と福島第一原発事故という歴史に残る災害が発生した2011年も、まさに暮れようとしております。依然としておぼつかない復興への道筋ですが、この災害を契機に、私たちは自分たちが日ごろ享受している豊かさがいかに脆いものかを思い知らされるとともに、医療機関はいかなる状況下においても医療を提供する使命を持つということを強く再認識させられました。

と、体外式の衝撃波結石破砕装置を泌尿器科に導入しました。さらに、HCU(高度治療室)11床を新年早々に稼働させ、新春にはがん患者さんの緩和ケア

フィットネス、メディカルアロマテラピー、通所リハビリテーションなどを開設してきましたが、4月には糖尿病センターを3階に開設し、創傷治療室(足外来)や生理機能室も併設しました。



理事長 古賀伸彦

医療法人天神会として2012年末までには、住民の無医地区解消の要望を受けた八女市に協力して同市辺春地区に診療所を開設し、久留米市宮ノ陣の久留米ビジネスパーク内には高度な医療を備えた老人ホームなどを建設する予定です。大震災を機会に、私たちの生活や医療を支えてきた基盤をしっかりと見据えながら、今後とも患者さんや地域のための医療に取り組みでいきたいと考えています。

も末永く地域医療を担っていた「だきたい」との声を受け、医療法人天神会では「地区住民の皆様と信頼関係を結ぶことが最も

大切なことであり、何よりも地区住民の皆様のための医療に取り組んでいきたい」と考えています。

大震災 復興願いシンボルカラーの花火競演



医療法人天神会は2011年8月5日に開かれた「筑後川花火大会」に協賛し、東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに被災地の復興を願って、約400発の花火を打ち上げさせていただきました。花火大会には久留米市や佐賀県鳥栖市に避難した東日本大震災の被災者160人も招待されましたが、天神会からのご冥福と復興を願うメッセージが読み上げられたあと、新古賀病院のグリーン、古賀病院21のオレンジ、新古賀クリニックのパープルの三色のシンボルカラーが競演する天神会オリジナルの花火「写真」などが打ち上げられました。また、花火大会では古賀病院21・消化器内科の酒井拓医師が救護班のボランティアを務めました。

鶴医師ら5人が救護活動

医療法人天神会では2011年10月9日、久留米市の筑後川河川敷で開かれた筑後川マラソンに医療協力し、古賀病院21・呼吸器内科の鶴将司医師と新古賀病院の南郷寿美子・外来看護師長、古賀千代美・6階病棟看護師長、後藤梨沙・ICU室看護師、車両管理部の緒方寿宏さんの5人が脱水症状でコースに倒れこんだランナーらの救護活動に当り、鶴医師が代表して感謝状をいただきました。写真。天神会では2008年の第5回大会から看護師3人を派遣し、2009年の第6回大会からは毎回、医師と救急車も派遣しています。

筑後川マラソン



医療法人天神会では、患者さんに必要な診療が行えるように常に施設を充実させてきました。古賀病院21では10、11月に相次いで前立腺肥大症を短期に治療するレーザーを使った内視鏡手術

病棟8床を開設する予定です。新古賀クリニックでは健康管理センターを男女別フロアに整備するとともに、消化器病(内視鏡)センター、婦人科、外来化学療法室、メディカル

を建設する予定です。大震災を機会に、私たちの生活や医療を支えてきた基盤をしっかりと見据えながら、今後とも患者さんや地域のための医療に取り組みでいきたいと考えています。

老人ホームなどを建設へ

医療法人天神会とグループ企業の株式会社マルコが久留米市宮ノ陣の久留米ビジネスパーク内に老人福祉施設とマルコの本社ビルを建設することになり、久留米市庁舎8階の特別応接室で2011年10月27日、天神会の古賀伸彦理事長とマルコの古賀良子・代表取締役、久留米市の榎原利則市長が、独立行政法人中小企業基盤整備機構の則松利昭・九州支部副支部長の立ち会いで、「久留米ビジネスパークへの進出協定書」を締結しました。

久留米ビジネスパークに進出



進出協定書に署名する（左から）古賀良子・マルコ代表取締役、古賀伸彦・天神会理事長、榎原利則・久留米市長



久留米ビジネスパーク内ではすでに古賀病院21が開業していますが、今回、進出するのは久留米ビジネスプラザ東側の用地約1万4300平方メートル右側です。計画によると、天神会とマルコが同整備機構から用地を購入し、天神会が鉄筋4階建て2棟の住宅型有料老人ホームやデイ

サービスセンターなどの老人福祉施設と在宅医療サービス事業施設、マルコが同3階建て1棟の本社ビルを建設（延べ床面積約4500平方メートル）、2012年12月から事業開始の予定です。
老人ホームは4階建て2棟の2〜4階に開設し、定員75人の予定。医療施設に入居するしかなかった人工呼吸器を着けた高齢者や人工透析が必要な高齢者の受け皿も目指します。また、古賀病院21の介護部門を1階のデイサービスセンターに移して運営します。

進出協定書の締結式では、久留米市の榎原利則市長が「久留米ビジネスパークに地域医療の中核を担う天神会の新たな老人福祉施設と、在宅医療を担うマルコの本社ビルが加わり、さらなる地域の発展が図れ、喜ばしい限りです。これでパークの入居率は94・1%となり、約2000人の雇用創設の場となりました」などと挨拶され、古賀理事長は「緑に包まれた癒しと安らぎの環境の中で、高度な医療を備えた介護施設を目指し、多くの地域医療機関と協力した街づくりに取り組みます」などと述べました。

年5回「市民公開セミナー」開催

医療法人天神会では、多くの地域住民の皆様に天神会が取り組んでいる先端医療などを知っていただき、医師らとの交流も深めていただくための「市民公開医療セミナー」（入場無料）を2012年2月から偶数月に年5回、新古賀病院の5階記念講堂で開催します。

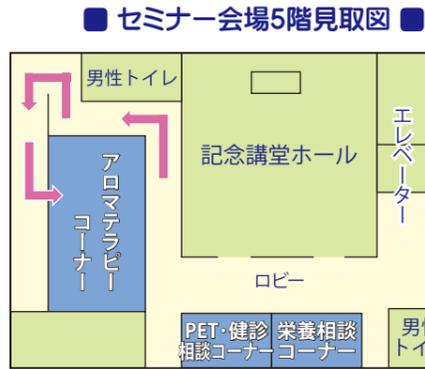
第1回目は2月4日（土）の午後1時から「がんの早期発見・早期治療とがんサロン」をテーマに開催し、古賀病院21の吉田毅・PET画像診断センター長が「がんを早期発見するための40列PET-CTを含む総合健診」、大曲淳一・放射線治療センター長が「がんを切らずに治療する最新の放射線治療」をテーマに講演しま

す。このあと、がん患者さんとご家族との交流の場「がんサロン」の開設2周年を記念して、九州大病院の外須美夫・麻酔科蘇生科教授に「がんになった時の心構え〜みんなで闘うがん医療〜」の演題で記念講演をしていただき、地域住民の皆様からの質疑にも応答していただきます。
会場にはアロマを使ったハンドマッサージが先着順で体験出来るア

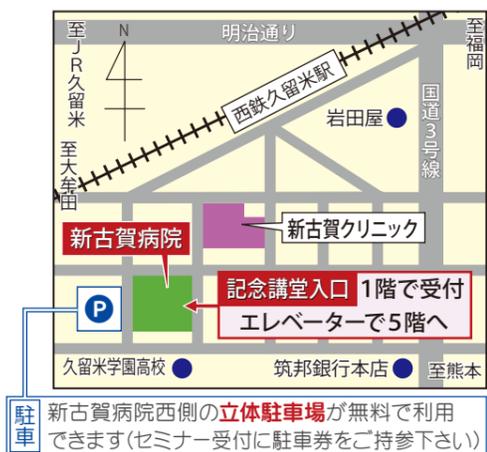
ロマテラピー、がん予防のレシピ紹介や栄養補助飲料試飲なども行う栄養相談、PET・健診相談の各コーナーも開設されます。申し込みは代表者の

住所・氏名・電話番号と参加人数をFAX(0942・38・2503)で送るか、電話(0942・38・292、0942・38・2504)で。なっていた架線柱計22本を2011年10月までに5年がかりで撤去しました。

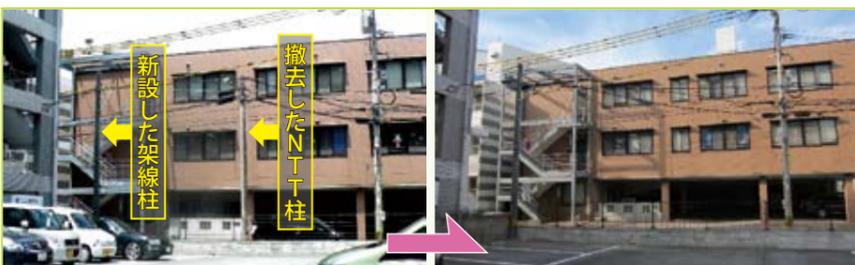
架線柱撤去の環境整備は2006年9月、新古賀クリニック西側の市道沿いにあったNTTの架線柱1本を撤去して以来です。新古賀クリニック東側の市道沿いにあったテレビ電波ビル障害対策用の架線柱9本、国道3号線の天神町交差点から新古賀病院前に抜ける市道沿いにある同架線柱6本なども撤去し、その費用はもちろん、九州電力やNTTの架線柱にテレビ電波ビル障害対策用ケーブルを架けさせてもらうための共架料も天神会が負担しました。



2月4日の第1回は「がん」テーマ



通行障害の架線柱5年がかりで22本撤去



新古賀病院西側のマインドビルと天神会関係者駐車場との間の市道 NTT柱を撤去して、天神会関係者駐車場内に架線柱を新設し、複雑に入り組んでいた架線もすっきり整理して張り替えました。

医療法人天神会では、新古賀病院と新古賀クリニック一帯の市道沿いに林立し、美観を損なうだけでなく、救急車などの車や市民の通行障害に

新古賀病院西側の市道では通行の障害となっていたNTTの架線柱を撤去して天神会関係者駐車場内にかわりの架線柱を新設し、国道3号線天神町交差点近くでは通行障害で撤去したNTTの架線柱2本を天神会の関連企業が購入した角地に移設しました。

施設案内の看板設置、電車内放送も開始

医療法人天神会では、地域住民の皆様が新古賀病院と新古賀クリニックに分かりやすく来院いただくための案内看板を充実させるとともに、2011年9月27日からは西鉄福岡天神―大牟田線の久留米駅に停車する電車121本で新古賀病院と新古賀クリニック、宮の陣駅に停車する電車126本で古賀病院21を案内する車内放送を始めました。

西鉄久留米駅は2階に改札口があり、中央階段を降りて1階の通路を右側に行くと新古賀病院と新古賀クリニックへの出口である東出口に向かいますが、看板は中央階段を降りてすぐの柱に箱型電照看板(縦1.5m、横0.8m) 写真①、東出口の頭上にLED使用電照看板(縦30cm、横4cm) 写真②を新設しました。どちらも新古賀病



1

院はグリーン、新古賀クリニックはパープルのシンボルカラーを地色に、白抜き文字でそれぞれの名称と「徒歩3分」「徒歩2分」を明記するとともに、赤色の矢印で方向を示しています。さらに、東出口を右折してタミールリベールの間の市道を抜けると、新古賀クリニック北側壁面の5、6階の間に設置された横看板(縦1.22m、横



2

24・36cm 写真③)が見えてきますが、この横看板の右端に「新古賀病院」を大きく掲示し、赤色の矢印で新古賀病院への方向を明示しました。また、新古賀病院正面玄関のひさしの上には、縦横90cm大の文字で「新古賀病院」の5文字を表示した箱文字式看板 写真④を新設しました。

一方、グループ企業の株式会社マルコが国道3号線天神町交差点近くに鉄筋6階建てビルを購入し、その有効利用の一環として高さ18mの北側壁面に新古賀病院と新古賀クリニックへの



3

案内 写真⑤)を完成させ、新古賀病院南側の市道沿いにある天神会職員駐車場前には、新古賀病院や新古賀クリニックに来院する患者さんらの車を立体駐車場へ誘導するための電照式看板 写真⑥)も設置しました。



6



5



4

地域医療セミナー1102人聴講

(FSCAI)は、ともに両学会が認定した高い成果を残したドクターに与えられる「Fellow」の称号です。この二つの称号を合わせ持つドクターは、九州でも小倉記念病院の延吉正清・院長をはじめとし少数しかいません。川崎センター長は15本以上に及ぶ英文の研究論文や日本国内でも有数のカテーテルインターベンションの治療実績などによって認定されました。



川崎 友裕
新古賀病院
心臓血管センター長

川崎センター長が米国心臓血管インターベンション学会も正会員に

新古賀病院・心臓血管センターの川崎友裕・センター長が、2010年3月14～16日に米国・アトランタで開かれた米国心臓病学会の学術会議で認定された同学会正会員(FACC)に続いて、2011年8月に米国心臓血管インターベンション学会の正会(FSCAI)にも認定されました。

米国心臓病学会正会員(FACC)、米国心臓血管インターベンション学会正会員

緩和ケアの在り方を小澤氏講演



新古賀病院は2011年10月22日、訪問診療を通して積極的に地域での看取りを行うとともに緩和ケアの教育活動にも取り組んでいる横浜市の小澤竹俊・めぐみ在宅クリニック院長を講師にお招きした「地域医療セミナー」を5階記念講堂で開催し、筑後地区はもちろん、大分県や佐賀県などから102人の医師や看護師、ケアマネージャー、ヘルパーらに参加していただきました。

小澤院長は「いのちの授業」といふ私たちがあれば、よい援助者になれるか」をテーマに講演。「相手を理解することは大切です

が、本当の苦しみをすべて理解することはできません。しかし、苦しむ人の理解者になることはできます。理解者になるためには相手の話を反復して聴くことが大切です」と話されました。さらに、「人は病気の苦しみの中でも強く生きようとする三つの支え、①将来の夢(時間的存在)②支えとなる関係(関係存在)③自己決定できる自由(自律存在)に気づく時、穏やかさを取り戻していきます。よい援助者とは

この相手の支えを理解者として強めることができる人です」と指摘し、誰かの支えになろうとする人こそ一番支えを必要としています。など、援助者の拡充や連携の必要性についても述べました。

参加者からは「私たちに必要なのは苦しみや辛さを分かちあうことと姿勢であることをつかり学ぶことができました」「患者さんを励ますことだけしかできなかった自分を反省しました」「もっと聴く力、理解する力をつけていこうと思います」などの声が寄せられました。

肥山副院長が救急隊員らに集中講義



肥山副院長が「気管支喘息の診断と治療」を講義しました。

筑後地域救急医療研究会の研修会

NPO法人筑後地域救急医療研究会の研修会が2011年11月22日と29日の2回、新古賀病院5階記念講堂で開催され、佐賀県鳥栖市や三養基郡を含む筑後地域全域の消防本部や消防署などから参加した救急救命士や救急隊員ら計250人に、新古賀病院の肥山淳一郎副院長が「気管支喘息の診断と治療」を講義しました。

同研修会は2009年11月、地域住民に質の高い救急医療を提供するための教育活動を目的に設立されたNPO法人です。集中講義は開催担当の八女消防本部を通じて肥山副院長に依頼があり、新古賀病院5階記念講堂では初めて開催しました。肥山副院長は両日とも2時間がかりで喘息の疫学や危険因子、急性増悪発作への対応、管理と治療などについて講義しました。

古賀病院21のPET画像診断センターは、北部九州の民間病院では最も早く2003年5月から「がん」を早期に発見するためのPET総合健診を始めました。PETの受診者が健診開始からちょうど100か月目（8年4か月）にあたる2011年9月20日に延べ3万人を突破しました。

海外からは43人受診

日本人の死因は「がん」が最も多く、3人に1人が「がん」で死亡していますが、「がん」は早期に発見し治療すれば治る確率の高い病気です。PETはブドウ糖によく似た「FDG」を静脈から注射して、「FDG」が人体のがん細胞に集まった様子を撮影する「陽電子放射断層撮影装置」です。当センターでは、2007年11月からCT（コンピュータ断層撮影）も備えた高精度で高画質の描出力を持つ「40列PET-CT」を全国で初めて導入し、総合健診はPETを含む各種検査を組み合わせた7コースで実施しており、「がん」発見率は人間ドックのみの検査の10倍を超える2・62%に達しています。

PET受診はこの自己負担の総合健診と健康保険適用診療の二通りの利用法がありますが、3万人の内訳は総合健診が2万1513人、健康保険適用診療が7836人、健康保険適用にならなかった自己負担診療が651人で、年平均3600人、月当たり300人のPET診断を実施してきました。

外国人のPET健診も、2004年7月にフィリピンの2人が受けて以来、これまでに中国、米、インドネシア、ロシア、台湾の5か国1地域の43人に達しています。日中の旅行業者を通じて中国からのPET健診は今年7月以来12月までに9人が受診しており、19人の予約が入っています。

PET受診者が3万人突破



PET 健診コースのご案内

スタンダード がんを調べる基本コース	87,150円
エクセレント がんを詳しく調べるコース	131,250円
PET・消化管 消化器系のがんも詳しく調べるコース	162,750円
高度精密がん健診 がんを高度精密に調べるコース	194,250円
三大疾病 がん・心疾患・脳卒中の三大疾病を調べるコース	194,250円
ゴールド 三大疾病と高度精密を合わせたコース	241,500円
プラチナ がん・心疾患・脳卒中・認知症を調べる最上級のコース	297,150円

※エクセレントから40列PET-CT使用

お問い合わせ・お申し込み

PET 画像診断センター

0120-318-188



PET 健診を体験する蔣偉さん

中国・合肥市の2人も体験

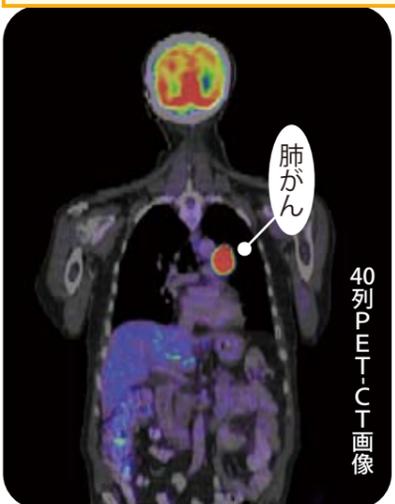
久留米観光コンベンション国際交流協会が久留米市の友好都市である中国・合肥市から招待した医療観光モニターツアーの2人が2011年12月1日、古賀病院21のPET画像診断センターでPET健診を体験しました。このツアーは、同協会が「医療都市・

当センターでは、今後とも「40列PET-CT」の精密な描出力と延べ3万人もの方々に実施してきた豊富な診断実績をもとに、さらなる「がん」の発見率向上と正確な診断を目指していきたくと考えています。

久留米」を海外にPRして久留米市への医療観光を誘致するための足掛かりにしようと、合肥市と協力し初めて企画したものです。ツアーには、同市の職員2人と富裕層の市民観光客6人が11月30日から3泊4日の日程で参加しましたが、当センターでPET健診を受けたのは、合肥市の外事弁公室職員で通訳の唐学坤さんと、不動産業や薬品販売などを手がける安徽天徽グループ有限会社の蔣偉・代表取締役で、どちらもPET健診は初めてでした。

蔣偉さんは「通常の検査は毎年上海市で受けていますが、がんを調べPETもぜひ受けてみたいと思っています。PETは中国にもありますが、まだ数が少なく、料金も日本よりかなり割高です。脳や心臓の検査も組み合わせたいコースを日本まで来て受けたいと考えている中国人は多いのではないのでしょうか」などと話していました。

蔣偉さんらは久留米市内の梅林寺や石橋文化センター、酒造会社なども訪ね、柿などのフルーツ狩りも体験しました。



40列PET-CT画像

まち旅でPETなど27人見学

久留米観光コンベンション国際交流協会の久留米まち旅博覧会実行委員会が企画した古賀病院21への「まち旅」(見学会)が、2011年10月8日と11月3日の2回開かれ、久留米市や小郡市、うきは市などから27人の市民の皆様に参加していただきました。

この古賀病院21への「まち旅」は、「医療のまち久留米」を訪ねる「まち旅」の一つとして2010年3月5日と4月2日にも開かれ、その際にも27人に参加していただいております。参加者は通算54人となり



PETについての説明を聞く参加者

「まち旅」では、吉田毅・PET画像診断センター長がPETだけでなく、「がん」を切らずに機能・形態を温存して治すトモセラピー(強度変調放射線治療機)や、脳疾患などの診断を行うMRI(磁気共鳴画像診断)装置などについて、スライドを使って分かりやすく説明。右上の写真にしたあと、それぞれの先進医療機器を見学して回り、お茶とお菓子を用意したティータイムも設けて懇談しました。

ロシア医療改革推進メンバーが視察

ロシア最大の経済団体「オーポラ・ロシア」の副会長でロシア医療評議会の副会長も務めるウシヤコヴァ・ナターリア団長ら9人が2011年11月5日、古賀病院21のPET画像診断センターや放射線治療センターなどを視察し、ナターリア団長を通じて、日ロ両国の友好的な医療交流を願うサフォノフ・ロシア連邦保健社会発展省副大臣からの親書が、医療法人天神会の古賀伸彦理事長に贈られました。写真。

「オーポラ・ロシア」からは2010年11月にセルゲイ・ボリソフ会長ら代表団13人が視察しました



が、今回はロシアの医療改革推進メンバーが中心で、ナターリア団長はモスクワ医学大学卒の小児科医であり、ロシアで初めて民間病院経営を始めたロシアの医療改革推進の第一人者です。古賀理事長の歓迎挨拶や平松義博院長からの病院全体の説明を受けたあと、PET画像診断、放射線治療の両センターだけでなく、ロシアではその在り方が問題になっているという医療廃棄物集積場を特に望んで視察し、最新鋭機器の仕組みだけでなく、治療費や治療期間、他の検査、治療と比べての優位性についても熱心に質問していました。

泌尿器科

相次ぎ2つの最新治療導入

古賀病院21の泌尿器科では2011年12月上旬までに、レーザーを用いた前立腺肥大症の内視鏡手術(PVP)と体外式衝撃波結石破碎装置「LITHOSKOP」を用いた尿路結石治療を開始しました。

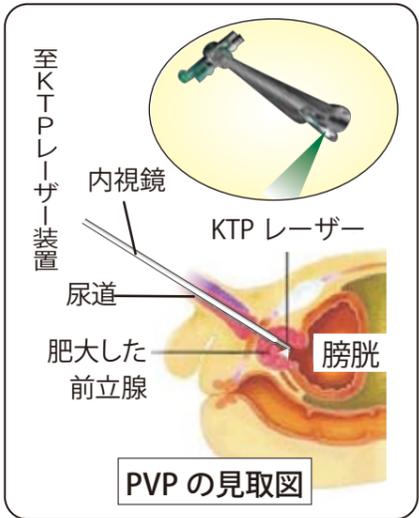
レーザーで前立腺肥大症手術

前立腺肥大症は加齢に伴って前立腺が肥大し、尿道を圧迫して尿が出にくくなったり、夜中に何度もトイレに起きたりするようになる病気で、古賀病院21の泌尿器科では、尿道の中に挿入した内視鏡で前立腺を観察しながら、内視鏡の先端につけた電気メスで肥大した患部を切り落とす「電気メスを用いた内視鏡手術(TURP)」も行っていますが、新しく始めたPVPは「光選択的前立腺蒸散術」と言い、この電気メスの代わりにKTP(チタンリン酸カリウム)レーザーを使います。KTPレーザーで発生した熱で肥大した患部を蒸散するため、術中術後の出血・痛み・腫れが少ないのが最大の特長で、出血など



KTPレーザー装置

このPVPは、欧米など世界約30か国で実施されています。我が国では2005年に名古屋市の名古屋セントラル病院が初めて導入し、2011年4月から保険適用になりました



PVPの見取図

古賀病院21 泌尿器科

	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	●	●	●
午後		●		●	●	

ご予約・お問い合わせ

☎ 0942-38-3333 (代表)

(受付時間 月～土 8:30～17:00)

古賀病院21

HCU11床開設

古賀病院21の2階にHCU(ハイケアユニット)高度治療室)が写真が開設され、2012年1月1日から稼働します。



開設されたHCUは、救急患者さんや循環器・呼吸器・消化器の各病棟の重症患者さん、手術後の患者さんなどを一時的に収容する高度治療室で、ゆったりとした約230平方メートルの広さに11床のベッドと看護師や臨床工学士が常駐するスタッフステーション、家族説明室などを設けています。

患者さんが感染症にかからないように陰圧、陽圧の適切な空調管理ができる設備を備え、室内は患者さんにやさしい明るい色調のビタミンカラーで配色し、壁面には薄いオレンジ色、天井には薄いレモン色を使っています。

面会時間は正午からと午後6時から各30分間。入室時には感染症予防のために病室入り口の速乾性擦剤を使用してもらうことになっています。

衝撃波で尿路結石破碎治療

2011年11月7日に全国発売された読売新聞社発行の「病院の実

病院21が全国で6番目のPVP導入施設です。



導入した体外式衝撃波結石破碎装置

尿は腎臓で作られ、尿管を通して膀胱に運ばれ、膀胱から尿道を通して排出されます。が、結石は尿中のカルシウムやアミノ酸成分などが時間をかけて固まったもので、この尿の通り道にできた結石を尿路結石と総称し、結石が見つかった場所によって腎結石、尿管結石、膀胱結石、尿路結石と言っています。「LITHOSKOP」は、お腹を切らずに、体外から体内に発生させた衝撃波で、この尿路結石を破碎して治療するドイツ・シーメンス社製の装置です。

部位の結石破碎治療も患者さんは仰向けに寝た状態で出来ます。さらに、結石の正確な位置決めを行うため、2方向からの結石透視画像をクリックするだけで自動位置決めが可能な機能を搭載しています。また、衝撃波は結石の種類や硬さに応じて最大3000発まで発生することが可能で、衝撃波のエネルギーを38段階にきめ細かく調整して、より低侵襲な治療を行うことが出来ます。この装置を使用した結石破碎治療には①健康保険が適用される②開腹手術ではないので身体への負担が少ない③高齢者や心疾患・糖尿病の方にも治療できる④治療は1回約1時間で終了するなどの利点があります。

自らが患者の末次さんTVで紹介

自らが古賀病院21の放射線治療センターで治療中の乳がんの患者さんでありながら、抗がん剤治療の副作用で髪が抜け始めた末次さんにタオル帽子を贈る活動に取り組んでいる末次由美さん(44)(大刀洗町山隈)が、2011年10月20日夕に放送されたKBC九

る活動を始めたのは、友人が抗がん剤治療の副作用で髪が抜け始めた末次さんにタオル帽子を縫った可愛い帽子を作ってくれたのがきっかけでした。「私が励まされ、うれしかったことを他の抗がん剤治療患者さんにもしてあげたい」という末次さんの呼び掛けに、



州朝日放送の「ニュースピア」で紹介されました。

末次さんは3人のお子さんを持つ主婦です。昨年10月に乳がんと診断され、左乳房切除の手術を受けました。2011年1月からは抗がん剤治療も受けましたが、その末次さんが抗がん剤治療の患者さんに手作りのタオル帽子を贈

けられました。以来、グループの仲間たちと作ったタオル帽子を各地の病院で抗がん剤治療を受けるがん患者さんに贈り続けています。

「ニュースピア」では、古賀病院21の放射線治療センターや大曲淳一・センター長の診察を受ける末次さんの様子なども放送されました。

「抗がん剤治療患者にタオル帽子を」

乳がん日曜検診に会社員ら119人

新古賀クリニックの健康管理センターでは、J・P・O・S・H(日本乳がんピクニック運動)が「J・M・S(マンモグラフィ検査が受けられる日曜日)」に提唱した2011年10月16日だけでなく、同年7月24日と11月20日にも乳がん日曜日検診を実施し、計119人もの方に来院していただきました。

乳がん日曜日検診を受けたのは、日曜日以外に休むことが難しい20~50歳代の会社員ら勤め先を持つ人がほとんどで、乳房をX線で撮影するマンモグラフィ検査はほぼ半数が初めてでした。当センターは、西鉄久留米駅から徒歩2分の至近距離にあり、受付・待合室・検査・診察室のすべてが男女別の専用フロアとなっており、ケート調査では当院を選んだ理由として「交通の便」などを挙げていただきました。



最新鋭のデジタル・マンモグラフィ装置

した。さらに、「検診を受ける際に重要視する項目」は「女性専用フロア」と答えた人が最も多く、次いで医師やスタッフの対応、最新の検査装置の順で



2011年9月24日に開かれた乳がん・婦人病市民セミナー

したが、「スタッフの対応がよく、先生の説明も分かりやすかった」「マンモグラフィもデジタル画像の最新鋭装置でより速い検査ができた」などのご感想、ご意見をいただきました。

新古賀クリニックでは健康管理センターでの乳がん検診とともに、女性の医師やスタッフによる「乳腺・肛門の

「くるめ学」で大嶋部長ら指導

久留米市の合川小5年生全員と荒木小5年2組が2011年11月29日、市庁舎2階のくるめホールで開かれた「くるめ学」の研究発表会で、NPO法人「久留米からくり振興会(古賀伸彦理事長)から指導を受けた「久留米が生んだ発明家・田中久重」について研究発表しました。



この日は、合川小と荒木小ともに、子供たちが背丈大の用紙に描いた久重の「万年自鳴鐘」「蒸気船」などの作品や業績紹介など持って登壇し、日本の近代科学技術の発展に貢献し、東芝の前身となる会社も創業した久重の偉大な生涯を紹介しました。

久留米市は昨年度から市内のすべての小中学校と特別支援学校で、子供たちが郷土に関することを自ら見つけて学ぶ「くるめ学」の授業を実施していますが、合川小5年生全員と荒木小5年2組では「東洋のエジソン」や「からくり儀右衛門」と呼ばれた幕末・明治期の偉大な発明家・田中久重を「くるめ学」のテーマに選び、久重の偉業を顕彰するとともに「からくり

の前身となる会社も創業した久重の偉大な生涯を紹介しました。このあと、人気TV番組「なんでも鑑定団」の鑑定士としても知られる東野進・日本からくり研究会理事長が、久重がつくった本物の三大からくり人形の一つ「茶酌娘」などを子供たちや市民に公開して喜ばれました。

女性専門外科外来も行っており、医療法人天神会では毎年、乳がん検診の大切さや治療に対する理解を深めていただくための「乳がん・婦人病セミナー」をNPO法人「九州元気の会」と協力して新古賀病院5階の記念講堂で開催し

県内5番目の22件実施

新古賀クリニック婦人科の斎藤伸道医師が毎週火曜日午後完全に完全予約制で実施している「遺伝カウンセリング」が、

2011年12月4日付の読売新聞くらし・健康面の「病院の実力」で紹介されました。



お申し込み・お問い合わせ
婦人科外来
0942-38-2222(代表)
予約受付時間
月~金 8:30 ~ 12:00

新古賀クリニックの遺伝カウンセリング

不安や検査、費用等について十分な情報を提供し、治療などをサポートします。臨床遺伝専門医は全国に797人、認定遺伝カウンセラーは12

5人しかいませんが、斎藤医師は同カウンセラーはもちろん、同専門医を目指す医師の指導医の資格を持ち、全国的にもいち早く2001年5月以来、10年がかりで「遺伝カウンセリング」を行っています。プライベート保険に最大の注意を払って個室のカウンセリング室を使い、2010年には22件実施しました。これは福岡県内5番目の実施件数で、新古賀クリニックは認定遺伝カウンセラーのいる県内唯一の施設となっています。

医療・介護Q&A

「寛解とは？」

「かんかい」と聞いても漢字が思い浮かばず、漢字を見ても意味が推定できない難しい言葉ですが、「寛」は「ゆるい」、「解」は「とける」状態を意味し、病気の症状が一時的に軽くなったり、消えたりした状態のことです。そのまま再発しないで完全に治る「治癒(ちゆ)」の可能性もありますが、場合によっては再発する可能性もあることを含んでいます。寛解からまた悪くなることを「再発」、もともと悪



「頓服とは？」

「頓(とん)」は「急なこと」を意味する漢字で、2010年11月に常用漢字に追加されました。「頓服」とは、毎食後や一日一回などの決められた時間ではなく、急に症状が出て必要になった時に薬を飲むことです。その時に飲む薬のことを「頓服(とんぷく)薬」と言います。鎮痛剤や解熱剤のことという誤解が多いのは、痛みや高熱が出た時の「頓服」として処方された薬が、痛みや高熱の症状に効く「頓服」という名前の薬だと思込まれたためではないでしょうか。

…… からだ言葉のカルテ⑧ ……

「母にはふたたびあひたれども父には一度もあはず」という「謎々」が室町時代の「後奈良院御撰何會」に残っていますが、その正解が「唇」とは現代人には分からないはず。なぜなら、現代語では「はは」も「ちち」も唇は一度も合わないから。ところが、室町時代では「はは」は両唇摩擦音の子音「φ」を使った「ふあふあ(φaφa)」と発音し、唇は二度合いました。

「母」の呼称は日本語の「は行音」とともに変化してきました。「は行音」は先史時代のある時期までは「ば行音」でしたが、「唇音退化」によってやがて子音「φ」を使う「ふあ行音」になります。この「ふあ行音」は平安時代中期になると語頭だけに限られ、語中、語尾では「わ行音」で発音されるようになり、現代語のような「は行音」となるのは江戸時代初めから。したがって、「母」は英語の父の呼称と同じ「ぱぱ」から「ふあふあ」となり、「ふあわ」を経て「はは」になったと考えられますが、「後



奈良院御撰何會」の謎々の正解は「ふあわ」を経て、室町時代に再び「ふあふあ」に戻って「はは」になったことを裏付けています。(水)

編集後記 第8号が出来上がりましたのでお届けします。第7号ではそれまで広報誌に使っていた紙が東日本大震災で生産不能となり、やむなく別の紙に変更しましたが、震災復興で生産再開となり、今回からまた元の紙に戻しました。お問い合わせやご指摘、ご要望などがございましたら広報部(0942・38・2386)までご連絡下さい。